セーフコミュニティ国際認証の取得に係る事前指導を実施します

ターゲット 17.17

2026 年 11 月 6 日
郡山市市民部
セーフコミュニティ課
課長　伊藤　聖隆
TEL：924−2158

SDGs ターゲット 17.17「官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する」

来年度の国際認証の３回目の取得に向け、海外の審査員を招き、これまでの取組に対し、助言をいただく事前指導を実施します。

１ 日　時　　令和８年 11 月 12 日（木）から 11 月 13 日（金）まで
別紙１「事前指導タイムスケジュール」参照

２ 会　場　　郡山市役所本庁舎２階　特別会議室

３ 内　容　　市の概要のプレゼンテーション及びディスカッション
６分野の対策委員会のプレゼンテーション及びディスカッション
外傷サーベイランス委員会のプレゼンテーション及びディスカッション
審査員講評　等

４ 審査員　　**別紙２「審査員プロフィール」**のとおり

５ 資料等　　市ウェブサイトに掲載
https://www.city.koriyama.lg.jp/site/safe/1850.html

＜セーフコミュニティ事前指導＞
セーフコミュニティの国際認証は、５年ごとに認証の審査を受けることが必要とされており、本市は、令和５年２月に２回目の国際認証を取得していることから、来年度、３回目の認証取得のための審査を予定しています。
今年度は、これまでの取組を海外の審査員に報告し、来年度の審査に向けての助言を受けるため、事前指導を実施します。



【別紙１】

郡山市事前指導　タイムスケジュール

会場　郡山市役所本庁舎２階　特別会議室

	11月12日（木）	11月13日（金）
9時	9：00～9：30　受付	9：00～9：30　受付
	9：30～9：45　開会	**9：30～10：30** **防災対策委員会**
	9：45～10：00　休憩	
10時	**10：00～11：15** **全　体　説　明**	10：30～10：45　休憩
		10：45～11：45 **高齢者の安全対策委員会**
11時	11：15～11：30　休憩	
	11：30～12：30 **交通安全対策委員会**	11：45～12：45 昼　食　休　憩
12時	12：30～13：30 昼　食　休　憩	12：45～13：15　移動
13時	**13：30～14：30** **こどもの安全対策委員会**	**13：15～14：15** **現　地　視　察** **いきいき百歳体操**
14時	14：30～14：45　休憩	14：15～14：45　移動
	14：45～15：45 **自殺予防対策委員会**	**14：45～15：30** **サーベイランス**
15時	15：45～16：00　休憩	15：30～15：50　審査員準備
	16：00～17：00 **防犯対策委員会**	15：50～16：35 審 査 員 講 評
16時		16：35～16：55　閉会
17時		

【別紙2】

郡山市セーフコミュニティ事前指導（2026.11.12～13）
審査員プロフィール

◆ミーガン・ブラザートン（Meegan Brotherton）◆



○ オーストラリア・セーフコミュニティ財団
　プログラムマネジャー

　オーストラリアのセーフコミュニティ支援センターである「オーストラリア・セーフコミュニティ財団」の設立（2004 年）及び支援センターとしての認証（2005 年）において主要メンバーとしての役割を担う。設立後はプログラムマネジャーとして国内の SC 活動を支援するとともに、カナダ発祥の「パスポート to セーフティ」という青少年向けの安全教育プログラムのオーストラリア版の開発と学校への普及に携わった。

　加えて、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、アメリカの SC 支援センター及び認証自治体からなる「環太平洋 SC ネットワーク」の設立と NPO 団体としての登録、WHO との公式な関係の構築に尽力し、　SC に関する制度づくりにおいて豊富な経験をもつ。

　認証審査に関しても、国内外の書類審査及び現地審査において豊富な実績を有する。これらの経験を活かし、バングラデシュ等発展途上国における若者の安全推進にも携わってきた。

◆チョ･ジュンピル（趙 埈佖）◆



〇医学博士
〇韓国全北特別自治道群山医療センター CEO
〇亜州大学医学部（韓国 水原市）　名誉教授
〇地域安全向上センター（同上）(*1)　センター長
〇国際セーフコミュニティネットワーク　副理事長
〇セーフコミュニティ・セーフスクール公認認証審査員
〇"International Distinguished Safe Community Career Award"受賞（2010）

(*1) セーフコミュニティ支援センター・インターナショナルセーフスクール支援・認証センター

1983 年　延世大学医学部卒業後、外科医として経験を重ね、1996 年より救急外科医となる。受傷による救急外来の患者の治療にあたるなかで事故・けがの予防の重要さを感じるようになる。その後、アメリカでの研究時代に SC の概念に出会い、韓国に帰国後に SC の概念を紹介した。水原市に SC を導入するよう働きかけ 2000 年に市が正式に活動を開始したことをきっかけに、亜州大学医学部に地域安全向上センター（現在、韓国 SC 支援センター・ISS 支援及び認証センターとして認証）を設置した。以降、韓国内にとどまらず、日本を含むアジア地域を中心に国際的に SC を指導・支援している。

セーフコミュニティ・セーフスクールの支援における長く豊かな経験が高く評価され、国際 SC ネットワークの副理事長、アジア地域 SC 支援センター連合の副理事長となった現在も、世界的な視点から SC の推進に尽力している。日本においても、ほぼすべての SC 推進自治体を訪問しており、事前指導や現地指導において医療従事者（救命救急医）としての視点と SC の推進における豊富な経験を生かした支援をいただいている。

2010 年にこれまでの功績が評価され、国際セーフコミュニティキャリアアワードを受賞。